

出来ていますか、家の中の安全対策

普段、快適に生活している家の中も、防災の視点から見ると意外に危険が隠れています。特に地震の際に室内の家具が倒れたり、落下したりすることで逃げ道をふさぐことがないよう、日頃からの安全対策が大切です。

●食器棚

扉が開いて食器などが飛び出ないように、扉解放防止器具をつける。また、ガラス飛散防止フィルムも貼っておく。

●照明器具

天井への直付けタイプが安全。吊り下げ式のものは、鎖などで3ヶ所以上で留める。蛍光灯は両端を耐熱テープで止め落下を防止する。

●住宅用火災警報機

煙や熱を感知すると警報音で知らせてくれる。消防法改正により家庭でも設置が義務づけられた。

●窓ガラス

ガラス飛散防止フィルムを室内側に貼っておく。

●本棚・タンスなど

壁際に設置し、上部をL字型金具で固定する。また下部の前方に板を入れるのも有効。上下タイプのものはつなぎ目を金具で固定する。

●テレビ

低い位置に置き、金具や装着マットなどで固定する。

●暖房器具

揺れに対する自動消火装置があるものを使用する。

●カーテン

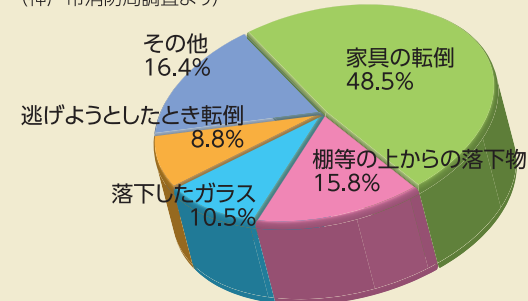
防災加工されたものを使用する。

チェックポイント 家具転倒の危険度

地震の際、家具が転倒すると下敷きになったり、室内が散乱し逃げ遅れる場合があります。阪神・淡路大震災のデータからも明らかです。家の中でケガをせず、安全な逃げ道を確保するためにも、家具の転倒・落下防止対策が大切です。



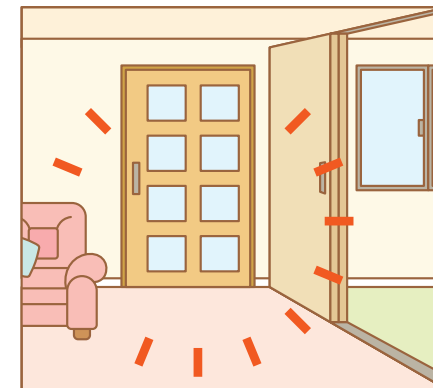
■阪神・淡路大震災でケガをした人の原因 (神戸市消防局調査より)



家の中の安全対策ここに注意

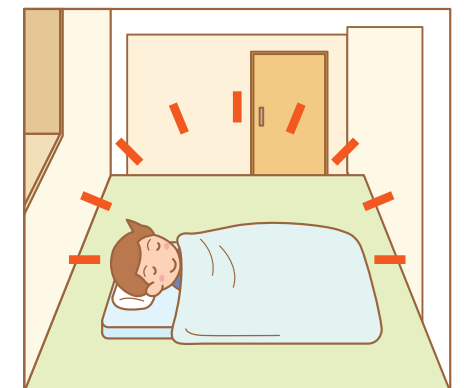
家具のない安全なスペースを確保する

●部屋が複数ある場合、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合、少しでも安全なスペースをとれるようレイアウトを考え直す。



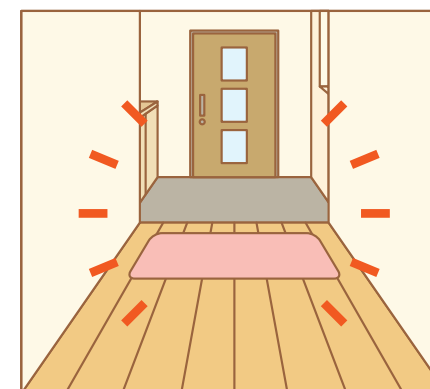
子ども・高齢者・障がい者のいる部屋には倒れそうな家具を置かない

●子どもや高齢者、障がい者は、倒れた家具が妨げとなって逃げ遅れる可能性が高いため、倒れそうな家具は置かないようにする。



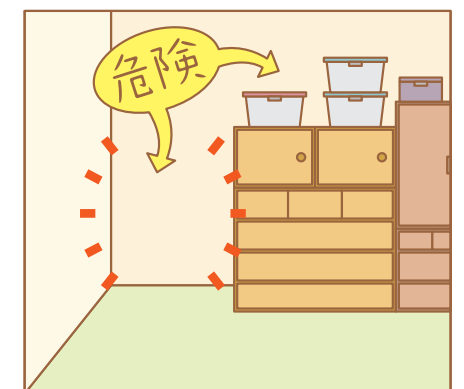
出入り口や通路に物を置かない

●いざというとき安全に避難できるよう、玄関などの出入り口やそこにいたる通路に、家具などの倒れやすい物を置かない。



家具の転倒、落下を防ぐ対策をとる

●家具と壁や柱の間にすき間があると倒れやすい。また家具の上には落ちやすいものを置かない。



チェックポイント 家具を固定できない場合の対策



●寝室では寝ている場所に家具が倒れてこない配置にする



●家具が直接倒れてこないよう机などで防ぐ配置にする



●家具が倒れても出入口は確保できるような配置にする